

あしらい〜朝顔の花（愛知県産） Japanese Morning Glory [Decoration for dishes]

「朝顔に 釣瓶とられて もらひ水」という江戸中期の有名な句にもあるように、朝から元気に咲く「朝顔」の花は日本の夏の風物詩でもあり、可憐に咲く夏の花の代表として昔から親しまれてきました。元々は遣唐使によって中国からもたらされた「蔦草」でした。アジア原産のヒルガオ科の植物で漢方では「牽牛子(けんごし)」と呼ばれて種が使われていたそうです。その後、天下泰平の世といわれる江戸時代になり、やっと庶民レベルにまで優雅に花を愛でられる時代が到来。この時がまさに観賞用朝顔の第1次ブーム、様々な品種が生み出され、その後もブームが二度三度と起きて活況を呈していたそうです。現代に至ってもなお日本固有の「和の朝顔」が様々な品種が生み出され、色も柄も様々で繊細なその佇まいに注目がされています。現在では、「朝顔」の種類は海外のものも入れて1600種類以上ともいわれています。日本の朝顔は外国のものに比べて開花期も7月〜8月ぐらいと短いものの、だからこそ夏の象徴としての愛着が増しているのかもしれませんが。そんな朝顔が、お料理のあしらい飾りでお使いいただけます。花(蕾)が短い間ですが出回り始めました。



CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 4/Aug/2025/vol.840